

はしがき

著者	岡本 崇男
雑誌名	神戸市外国語大学外国学研究
巻	56
ページ	1-2
発行年	2003-03-28
URL	http://id.nii.ac.jp/1085/00000695/



は し が き

本書は1562年にプロテスタント活動家シモン・ブドニが当時のリトアニア大公国のネスヴィジ(現在のベラルーシ共和国南西部の都市ニャスヴィジ)で出版した *КАТИХИСИСЪ. Или гласомъ учения. Къ всѣмъ благовѣрнымъ христіаномъ* (「すべての敬虔なキリスト教徒のためのカテキズム, あるいは声による教え」— 以下、『教理問答』と呼ぶ)にまつわる総合的な研究の成果の一部をまとめたものである。

本研究班の構成は以下のとおりである。

2001年度

井上幸和(本学外国語学部)

リュドミラ・エルマコーヴァ(同)

岡本崇男(同, 研究班代表)

清水俊行(同)

2002年度

井上幸和(本学外国語学部)

リュドミラ・エルマコーヴァ(同)

岡本崇男(同, 研究班代表)

高橋一彦(本学外国学研究所)

清水俊行(本学外国語学部)

本研究班の活動は井上が入手した『教理問答』マイクロフィッシュ版(これについては後述)を井上本人が拡大複写したものを底本とすることから始まった。そして、当初は16世紀中期の印刷本である原テキストを現代風の表記に転写した『教理問答』の全文(四部構成)と研究班構成員の関心に応じた研究論文あるいは解説によって本書を構成することを目標とした。しかし、現代の欧文印刷に使用されるものよりもはるかに大きな活字で版が組まれているとはいえ250葉(両面印刷)を越える全文を150ページという制限を持つこの「外国学研究」に掲載することには無理があることが判明したため、最終的に本書に収められるのはブドニの『教理問答』にかんする簡単な解説と本文の約半分のページ数

を占めている第一部のテキストのみとし、すでに研究論文を準備していた班員（特に、清水）には執筆を辞退していただいた。

なお、本書で使用した『教理問答』テキストはオランダIDC社が提供するシリーズ *Biblical Publications in Cyrillic Letters* を構成している *Katekhizis, Nesvizh, 1562*（マイクロフィッシュ版）である。テキストの翻刻および写真の一部使用を快諾して頂いたIDC社プロジェクト・マネジャーTatyana Doorn-Moisseenko氏にはこの場を借りて謝意を表したい。

* * *

（注記）本研究班が2001-2002年度神戸市外国語大学外国学研究所共同研究班として採用された時点では、研究テーマが「ルター派『カテキズム』東スラブ語訳テキスト(1562年)の文献学的研究」となっていた。このため所定の活動期間中は本研究班の公式の名称にも上記の研究テーマが冠されるのはやむをえない。しかし、このテキストがしばしば「カルヴァン派カテキズム」と呼ばれていることを考慮すると「ルター派」のものでない可能性が強く、一方で「マルティン・ルターの大カテキズムのベラルーシ語訳」と明言する研究者[PolBib, 303]も存在している。このためこのテキストの内容の検討だけでなく、16世紀中期リトアニアでカルヴァン派聖職者がルターの教理問答を使用した可能性についても調べる必要があるのだが、われわれの研究はいまだにそこまで到達していない。したがって、今回研究成果として公表される本書の表題からひとまず「ルター派」という一句を削除することにした。

（研究班代表 岡 本 崇 男）